

扶助せざるものなし

筑波山

本陣 知足院

凡五拾人余

寶竟院  
凡五拾人余

金剛院  
凡五拾人余

幕紋の  
下り藤  
凡五拾人余

大将 田村稻右衛門  
武内百太郎  
油異方 岩谷桂太郎

飯村儀治郎

戸牧行蔵

藤田小四郎  
千種太郎  
安部新吾

【六三頁】

(三十九)筑波勢各隊配置・職務分担書上

扶助せざるものなし

筑波山

本陣 知足院

凡五拾人余

寶竟院  
凡五拾人余

金剛院  
凡五拾人余

幕紋の  
下り藤  
凡五拾人余

大将 田村稻右衛門

武内百太郎

神異方 岩(夫?) 岩谷桂太郎

飯村儀治郎

戸牧行蔵

藤田小四郎

千種太郎

安部新吾

使番

江戸屋

久右衛門

熊ヶ谷

伊東

嶋田

外三人程

川亦茂七郎

大越屋

大越屋

茂兵衛

凡十人余

神田屋

与市

凡二十人余

瀬尾

伴右衛門

凡二十人余

結束

武左衛門

凡十人余

幕ノ紋  
輪違

瀬尾

伴右衛門

凡二十人余

目附  
札方

栗田源左衛門  
千葉小太郎

小田屋  
とらの市

武器方と唱候もの

目附  
札方

千葉小太郎

栗田源左衛門

中村新市

外巻人

結束

武左衛門

凡十人余

中お新市

長谷川金之進

【六五頁】

稻葉屋  
太郎右衛門  
凡拾六人程

千屋

勝治

稻葉屋

右両家にて

嘉兵衛

右両家にて 嘉兵衛

根本新平

凡三十人余

幕ノ紋

鶴屋

幕ノ紋  
日ノ丸・五本骨扇

鶴屋  
九米三郎

日ノ丸・五本骨扇 九米三郎

飯田郡蔵

凡十人余

飯田郡蔵  
大和田外記

凡十人余

大和田外記

永屋  
大久保 両家

普請方

凡十人余

普請方

凡十人余

瀧口屋

宇都宮左衛門

嘉七

凡十人余

凡十人余

宇都宮左衛門

菓子屋  
由兵衛  
凡拾貳人

後藤周吾  
小林幸八  
外拾人余

一兵糧米凡千俵位

内五百俵

新治郡小幡村へ相下ヶ候由

一時宗にて来光寺と申寺之地内にて鉄炮細工致候

一車臺大炮老挺 但玉目不分

右者神田屋与市前に有之

一木炮凡百挺余 但大玉多分二出来候

一西口登り道見張所 凡貳拾人余 沼田村

一南口見張所 凡五人余 五丁目入口

一東口小幡道見張所 凡拾人余 風返ノ峠ニ五間

一上俵ノ峠ニ四間ニ武間之家作補理

一上俵ノ峠ニ四間ニ武間之家作補理

【六六頁】

菓子屋

由兵衛

凡拾貳人

後藤周吾

小林幸八

外拾人余

一兵糧米凡千俵位

内五百俵

新治郡小幡村へ相下ヶ候由

一時宗にて来光寺と申寺之地内にて鉄炮細工致候

一車臺大炮老挺 但玉目不分

右者神田屋与市前に有之

一木炮凡百挺余 但大玉多分二出来候

一西口登り道見張所 凡貳拾人余 沼田村

一南口見張所 凡五人余 五丁目入口

一東口小幡道見張所 凡拾人余 風返ノ峠ニ五間

一上俵ノ峠ニ四間ニ武間之家作補理

一上俵ノ峠ニ四間ニ武間之家作補理

一 名馬

但湯袋道

凡六拾正余

右者此程探索之表にて八筑波山へ諸勢引受、専ら防戦と決定いたし候様ニ相見得候、尚変事ハ追々可奉申上候、以上

一 此節府中宿ニ罷在候

宿所橋本屋

頭分

國あ府新太郎

凡三拾人余

阿久津小太郎

一 此節笠間領見張所緩やかにて真壁町へ浪人時々用達し等に参候よし

おにふふふふ

一 七月十六日水戸様御人数御通行、羽黒泊但人足百人、馬三拾正用意之先触有之候所延引ニ相成、其後廿一日小山出立結カ鏈城通りにて

一 筑波山にて大炮出来ニ付祝儀として近郷村々百姓呼上げ

【六七頁】

但湯袋道

乘馬 凡六拾正余

右者此程探索之表にて八筑波山へ諸勢引受、専ら防戦と決定いたし候様ニ相見得候、尚変事ハ追々可奉申上候、以上

此節府中宿ニ罷在候

宿所橋本屋

頭分

國あ府新太郎

凡三拾人余

阿久津小太郎

此節笠間領見張所緩やかにて真壁町へ浪人時々用達し等に参候よし

七月十六日水戸様御人数御通行、羽黒泊但人足百人、馬三拾正用意

之先触有之候所延引ニ相成、其後廿一日小山出立結カ鏈城通りにて

羽黒泊相成候よし

登り口四ヶ所へ式間に五間高一丈位三石を積備置候由、七月十二日筑波山にて大炮出来ニ付祝儀として近郷村々百姓呼上げ

偏為給候よし

一 長州浪人千人余水戸湊へ着致、其内百五拾人余、七月十五日

夜筑波山へ着致候趣

一 七月十日羽黒にて伝承候物語、長州勢三千人・藝州

勢千人京都邊へ押寄、會津様之早打にて東海道

騷動致候よし

元治元甲子年十月廿日写し畢ぬ

由田其に違ふ水戸より筑波へ入込候面々

八百石 竹田彦九郎 千式百石 岡田河内守

八百石 大場弥右衛門 六百石 大田原傳内

千式百石 松浦吉治郎 八百石 渡邊 宮内

七百石 中勇惣右衛門 四百石 渡海瀬兵衛

五百石 小嶋 某 六百石 大嶋 多膳

【六八頁】

酒為給候よし

一 長州浪人千人余水戸湊へ着致、其内百五拾人余、七月十五日

夜筑波山へ着致候趣

一 七月十日羽黒にて伝承候物語、長州勢三千人・藝州

勢千人京都邊へ押寄、會津様之早打にて東海道

騷動致候よし

元治元甲子年十月廿日写し畢ぬ

(四十) 當節追々水戸より筑波へ入込候面々

當節追々水戸より筑波へ入込候面々

八百石 竹田彦九郎 千式百石 岡田河内守

八百石 大場弥右衛門 六百石 大田原傳内

千式百石 松浦吉治郎 八百石 渡邊 宮内

七百石 中勇惣右衛門 四百石 渡海瀬兵衛

五百石 小嶋 某 六百石 大嶋 多膳

五百石  
 大澤宗兵衛  
 五百石  
 松本源藏  
 三百石  
 飯田直之助  
 三百石  
 小宮山次郎左衛門  
 此組三拾組  
 其外百石以下數不知

付使之拾組  
 其外百石以下數不知

一 福高板倉内膳正様御家来、江戸定府小菅庄兵衛討死に付、右宿元へ同藩高橋秀蔵より之  
 同藩高橋秀蔵より之来書左之通

御飛脚御差立に付一筆致啓上候、然者去ル九日、田沼様明十日  
 此方御人数數之御家来、江戸定府小菅庄兵衛討死に付、右宿元へ  
 同藩高橋秀蔵より之来書左之通  
 市川三左衛門殿并鯉淵勢段々繰出争戦相始候所、敵方  
 勢強、右三左衛門殿并鯉淵勢敗走致候二付、此方様御人数  
 繰込加勢致候様三左衛門殿より度々被申越候二付、直様  
 御人数押詰候所忽戦争二相成、御人数二而頗二防戦致居候内、  
 三左衛門殿勢不殘無恙引揚二相成候間、賊徒方御人数へ

【六九頁】

五百石 大澤宗兵衛 五百石 松本源藏  
 三百石 飯田直之助 三百石 小宮山次郎左衛門  
 此組三拾組  
 其外百石以下數不知

(四十二) 福高板倉内膳正様御家来討死に付、右宿元へ同藩高橋秀蔵より之  
 来書

一 福高板倉内膳正様御家来、江戸定府小菅庄兵衛討死に付、右宿元へ  
 同藩高橋秀蔵より之来書左之通

御飛脚御差立に付一筆致啓上候、然者去ル九日、田沼様明十日  
 此方様御人数數前濱一本松より賊徒籠居候館山筋へ攻掛  
 候様御達二相成、翌十日早天二御人数御繰出二相成候所、一番手  
 市川三左衛門殿并鯉淵勢段々繰出争戦相始候所、敵方  
 勢強、右三左衛門殿并鯉淵勢敗走致候二付、此方様御人数  
 繰込加勢致候様三左衛門殿より度々被申越候二付、直様  
 御人数押詰候所忽戦争二相成、御人数二而頗二防戦致居候内、  
 三左衛門殿勢不殘無恙引揚二相成候間、賊徒方御人数へ

強く打合、相成、双方血戦、折庄兵衛様被成御討死候、扱々  
 何共申上様も無御坐、御愁傷之段奉察候、誠残念至極  
 於私も無限悲歎事御坐候、扱其外多人數御討死之事  
 御坐候、御討死之方々御血戦二付而者敵方にも澤山死亡  
 手負も有之由專相唱申候、扱庄兵衛様御討死に付而者御死  
 骸も御引取二相成、直様火葬二、御上にて被成下候二付、骨者  
 御武具役并私罷越御箱へ相納申候、其内、上にて御廻被下候義  
 御坐候、且御品物之類へ御武具役西山直之丞殿・岸田孫太郎殿、  
 私立會之上御品物遂一相改覚書相調右三人印形之上、西山氏・  
 岸田氏へ相渡候間、御両人帰府之上改書二引合御品物御引渡  
 可申候間、右方より御請取可被下候、御品物之内御役印并御用留ハ  
 私無相違請取申候、直様御役印者致上納候、左様御承知可被  
 成下候、尤庄兵衛様御出陣之節御隨身之御品之外御道具  
 類者御討死之節失申候間、左様御承知可被下候、右者為  
 御知御悔迄可得御意如斯御坐候、恐惶謹言

【七〇頁】

強く打合二相成、双方血戦之折庄兵衛様被成御討死候、扱々  
 何共申上様も無御坐、御愁傷之段奉察候、誠残念至極  
 於私も無限悲歎事御坐候、扱其外多人數御討死之事  
 御坐候、御討死之方々御血戦二付而者敵方にも澤山死亡  
 手負も有之由專相唱申候、扱庄兵衛様御討死に付而者御死  
 骸も御引取二相成、直様火葬二、御上にて被成下候二付、骨者  
 御武具役并私罷越御箱へ相納申候、其内、上にて御廻被下候義  
 御坐候、且御品物之類へ御武具役西山直之丞殿・岸田孫太郎殿、  
 私立會之上御品物遂一相改覚書相調右三人印形之上、西山氏・  
 岸田氏へ相渡候間、御両人帰府之上改書二引合御品物御引渡  
 可申候間、右方より御請取可被下候、御品物之内御役印并御用留ハ  
 私無相違請取申候、直様御役印者致上納候、左様御承知可被  
 成下候、尤庄兵衛様御出陣之節御隨身之御品之外御道具  
 類者御討死之節失申候間、左様御承知可被下候、右者為  
 御知御悔迄可得御意如斯御坐候、恐惶謹言



十月十六日白書

江戶 高橋秀藏

中普庄兵衛様御宿

先々前にも申上候御品物御武具役へ引渡候二付、右方よりも  
定而御案内可申上義故宜御承知可被下候  
次ニ相成候得共、御養子之義御急被成候義にも不及旨御重役  
御舎ニ御坐候間、此段も一時申上置候、先者早々、以上

【七一頁】

十月十六日出

従水戸

高橋秀藏

江戶

小普庄兵衛様御宿

先々前にも申上候御品物御武具役へ引渡候二付、右方よりも  
定而御案内可申上義故宜御承知可被下候

次ニ相成候得共、御養子之義御急被成候義にも不及旨御重役  
御舎ニ御坐候間、此段も一時申上置候、先者早々、以上